

先天性サイトメガロウイルス感染の確定診断のための  
生後3週間以内の新生児尿を用いたCMV核酸検査が保険適用になりました

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

2018年9月作成

先天性サイトメガロウイルス（CMV）感染の診断は、生後3週間以内の新生児の尿中のCMV核酸検出によって行います。この度、生後3週間以内の新生児尿を用いたCMV核酸検査が2018年1月より保険適用となりました（保険点数850点）。2018年9月現在、株式会社SRL、株式会社LSIメディアエンス、株式会社BMLでの受託検査も行われています。

### 尿CMV核酸検出の保険診療における注意事項

- 検査対象は生後3週間以内の新生児の尿です。この時期を過ぎると後天性感染と区別できません。尿以外の検体は使えません。
- 先天性CMV感染のリスクを有する新生児（表参照）を対象に確定診断を目的とした定性試験です。
- 等温核酸増幅法により測定した場合に1回に限り算定できます（保険点数850点）。
- 本検査に用いる体外診断用医薬品として、CMV核酸検出試薬「ジェネリス CMV」（株式会社シノテスト）が販売されています（2018年9月現在）。
- 感染症免疫学的検査のグロブリンクラス別CMV抗体検査をあわせて実施した場合には、主なものだけが算定されます。
- この保険診療は、CMV感染のスクリーニング検査としては使用できません。

表 先天性CMV感染のリスクを有する新生児の例

<b>① 症状を有する新生児</b> 【新生児】	<b>② 妊娠中にCMV感染が疑われた妊婦からの出生児</b> 【妊婦】
小頭症	妊娠中の感染徴候（発熱やリンパ節腫脹）
水頭症、脳室拡大	血中CMV IgM陽性や妊娠中のCMV IgGの陽転化
脳室周囲石灰化	<b>③ 胎児期に異常所見があった新生児</b>
大脳皮質形成不全	【胎児】
肝脾腫、肝機能障害、黄疸	胎児発育不全
出血斑、ブルーベリーマフィン斑	胎児超音波検査での異常所見
聴力障害（聴性脳幹反応異常）	脳室拡大、頭蓋内石灰化、小頭症、脳室周囲嚢胞
網膜脈絡膜炎	腹水、肝脾腫
SGA	腸管高輝度
など	など